

平成 26 年度第 5 回宮崎県河川整備学識者懇談会

議事録

1. 開催日時

平成 27 年 3 月 23 日（月）13：30～16：00

2. 開催場所

宮崎県企業局（県電ホール）

3. 次第

3.1 開会

3.2 あいさつ

3.3 議事

- (1) 環境調査の結果とりまとめ
- (2) 指摘事項と対応について
- (3) 各河川の河川整備計画（案）
- (4) 今後のスケジュール
- (5) その他報告事項

3.4 閉会

4. 議事録

| | |
|---------|---|
| 1. あいさつ | |
| 部長挨拶 | <ul style="list-style-type: none">・ 河川事業を進めるために必要となる河川整備計画の今年度中の策定を目標とし、これまで 4 回の懇談会を開催した。・ 昨年末から今年の初めにかけて、水系ごとに地元説明会を開催し、地域住民の皆様から整備計画の原案に対する貴重なご意見等をいただいた。本日は、懇談会や住民説明会の意見を踏まえ作成した河川整備計画（案）を提示させていただく。・ 指摘等が十分反映されているかなど、委員の皆様には検討をお願いしたいと考えている。・ また、住民説明会において、多くの住民の皆様から、少しでも早く工事に着手してほしいと意見をいただいた。県としては、安全で安心な県土づくりの着実な推進を目指し、レベル 1 津波対策を前進させたいと考えている。委員の皆様のご意見、ご助言をいただくよう祈念して、挨拶とさせていただきます。 |

| | |
|--------------------------------------|---|
| 2. 議事 | |
| (1) 河川環境調査の結果とりまとめ | <p>会長)</p> <ul style="list-style-type: none"> 4. 河川環境の特徴については、整備計画を説明する際に、意見をいただきたい。 <p>委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> P6などに生物相についての記載があるが、一目でわかるためには、もう少し工夫がいると感じる。各河川の生物種数を4タイプで図示した現状のものでは理解しにくい。これを見た人がすぐわかるためには、結局、ハビタットの数とそのハビタットが持っている面積を背景につけて表す必要がある。 <p>事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> 貴重なご意見のため、今回改善できるところは改善し、これから整備計画を立てる中で、そういったハビタットの数とか面積もレイヤーでわかるような形で比較して、よりわかりやすい資料づくりに努めていく。 <p>会長)</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料-1は、河川整備計画の本文のほうに文章として反映される形になっているが、この図は入るのか。 <p>事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> 図そのものは1年間の調査結果を概要としてまとめたもの。個別河川の本文の中には入ってこない。 <p>会長)</p> <ul style="list-style-type: none"> この図は、委員の皆様方に、理解していただく為にまとめたものであって、整備計画の本文をつくる際の説明用。先ほどの回答は、今後、整備計画を策定するときはそういうまとめ方をするという事で良いか。 <p>事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> その通り。 |
| (2) 指摘事項と対応について (3) 各河川の河川整備計画(案) | <p>委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> 沖田川河川整備計画P16に、沖田川水系の主な洪水被害が表となって記載されている。ここでは、被害の家屋数あるいは浸水面積について記載があるが、農林水産関係、インフラ関係、公共施設、及び医療関係などそれぞれの詳細な被害状況については記載がない。被害の表があること自体は、わかりやすくいいが、現状で被害家屋しか示されていないのはなぜか。 また、実際の被害額はどのくらいになるのか。被害額を把握することが、防災費を見積もる一つの目安となる。被害額が記載されていない理由はなぜか。 <p>事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> 被害関係については、基本的に水害統計等でわかる範囲で調べている。過去の被害について、用途別の被害状況まで調べ上げることはなかなか困難な部分がある。また、一般論として、整備計画に盛り込む内容として、用途別まで踏み込んだ内容は記載していない。 被害額等の細かい検討に関しては、実際これから事業に新規着手していく中で整理していく。14水系については、昨年度、新たに事業を起す際に、事業効果等の算出を行い、別の委員会の中で、この採択について了解をいただいている。また、今回の整備計画中には、費用対効果等も |

含めた事業効果の具体的な指標等についての記載はなく、そこまで整備計画に書くところではないと考えている。

委員)

- ・ 例えば、阪神・淡路大震災や東日本大震災について、内閣府は被害額を算出する上でその対策費を算出しているのので、ここは大事だと思ひ尋ねた。計画の過程で検討されたとのこと、その点については了承した。
- ・ 資料-2 P3 No.9 に、「今回の津波シミュレーションでは洪水時を考慮していない。」との記載があるが、この「今回の」とは、今回はわからなかった、シミュレーションの選び方が悪かったから想定外だったなど、言いわけにつながる逃げ道なのか。これはあくまで予想で、予想が確実に当たるといふ話ではないが、他のシミュレーションを使うことで結果は変わるので、この辺について一度聞いておきたい。説明いただけたらありがたい。

事務局)

- ・ 指摘のように、「今回の」とは誤解を生む表現かもしれない。「今回の」と使った意図は、レベル1津波を設定する上で、平成23年7月の国からの事務連絡文書等をベースに、新たに宮崎の津波断層モデルを5つ設定し、宮崎県が計算したということで、「今回の津波シミュレーション」と記載した。国が示した規準に従ったシミュレーションであり、これ以上のレベル1津波のシミュレーションはないと考えている。

委員)

- ・ 国が指定したシミュレーションモデルを基に、宮崎県が実施したという理解で良いか。

事務局)

- ・ シミュレーションモデルは、内閣府が示したモデルと、県が設定した日向灘の北部と南部の独自モデルも合わせて、5つのモデルで検討している。

委員)

- ・ 地元しかわからない状況も踏まえ、やれることは全てったという理解で良いか。

事務局)

- ・ その通り。

委員)

- ・ 掲載されている河川の写真に赤い矢印が追加してあるが、これは被害が起こったときに逆流することを表しているのか。それとも、上流から下流に流れているという意味なのか。

事務局)

- ・ 基本的に川の流れを書いている。指摘のように、新別府川河川整備計画P14のように、氾濫方向を示している矢印も中にある。色を分けるなどの配慮が必要かもしれない。

委員)

- ・ 堤防等の老朽化の痕跡が多々あるが、資料-3の備考に「－」又は、「実施した」と記載されている。現在、公共施設の老朽化問題について県で検討されているとは思いますが、対応状況に違いが出ているのはなぜか。

事務局)

- ・ 加江田川と県南の河川では、老朽化について地元説明会で具体的意見が

あった。例えば加江田川では、堤防の下に液状化対策を実施する計画で整備計画の中に位置づけていたが、住民側からは、堤防の下だけでなく、堤防本体が老朽化していることも確認して欲しいとの意見があった。後日、ご意見を言っていたいただいた方と一緒に現地を確認し、指摘の通りの老朽化の形跡があったため、液状化対策だけでなく、堤防本体も含め、今回の事業にあわせて一緒にやりましょうと回答した。

- ・ また、津波対策の中で嵩上げをする場合もあるが、嵩上げする箇所の堤防の下が老朽化している場合も、老朽化が認められる場合には一体的に整備を進めると回答した。

委員)

- ・ 住民から指摘のあった河川についてはやるが、指摘の無い河川についてはチェックしないということなのか。

事務局)

- ・ それは一般的な考え方であり、今回、地震・津波対策を実施するに当たって、老朽化対策をあわせてやったほうがいい場所については、全ての河川で同時に行いたいと考えている。

委員)

- ・ 沖田川河川整備計画 P13 に浜川の水質がよくないと記載があるが、その後の文章で浜川の水質について触れられていないのはなぜか。

事務局)

- ・ 沖田川河川整備計画 P13 の 2 段落目についての指摘かと思うが、浜川の水質の対策として、P20 ページ (2) 水質で、「流域住民や関係機関と連携し、改善に努めていく」と書いている。ここでは、浜川についての具体的な記載はないが、我々としては改善方針について表現しているものと考えている。実際には、延岡土木事務所を中心として浜川の水質改善に向けた諸々の取り組みに着手している。

委員)

- ・ 資料-1 の河川環境の特徴にも浜川の水質について、「改善しないといけない」と書いた方が良い。
- ・ 塩見川河川整備計画 P6 に「コアモモ群落はアカメ等魚類の生育場を提供しており広大な」という文章は、「魚類の」は「魚類に」ではないか。

事務局)

- ・ 指摘のとおり修正する。

委員)

- ・ 豊かな環境の場合には生物生息生育場の中に「エコトーン」という表現を使い、貧弱な環境の場合には今後の河川環境のあり方に「エコトーンの形成」という単語を本文中に入れてはどうか。
- ・ 沖田川河川整備計画にエコトーンについての記載があるが、エコトーンの構成要素の中に「塩性低木林」または「ハマボウ群落」を入れるのはどうか。

事務局)

- ・ エコトーンに関しては、14 水系で温度差をつけて記述した。エコトーンが豊かな河川は他にもあるが、特筆する部分として沖田川、加江田川には記載している。
- ・ 沖田川のハマボウ、塩性低木林等について、ご指摘のとおり本文中に加

える方向で検討させていただく。後ほど委員に、本文の修正内容について検討いただきたい。

会長)

- ・ 加江田川では「樹林地等」と記載されている。沖田川にも「樹林地」という言葉を入れたらどうか。
- ・ 2つ目の今後の河川環境のあり方に「エコトーンの形成」というのはどうか。

事務局)

- ・ 今後の河川環境のあり方に「エコトーンの形成」と書いている河川が幾つかある。これは、特に河口閉塞等で生息場が単調になっている部分で、エコトーンの形成に努める必要があるため記述している。
- ・ 鳴子川については、底生動物も含め、多様な生物相は育んでいるが、護岸で固められた非常に単調な生息場となっているため、ここについては豊かでも「エコトーンの形成」と記述している。

会長)

- ・ 2.2.3で、エコトーンの形成に努める必要があると書いていながら、その後記述がない。資料-1で今後の河川環境のあり方に「エコトーンの形成」と書いてある河川については、3.6や4.3に追記してはどうか。

事務局)

- ・ 鳴子川を除く、伊比井川、宮浦川、風田川、県北の赤岩川については、河口閉塞で単調化傾向にあるため、この4河川については、3.6の中にも、エコトーンの形成等に努める旨の文章を記述する。

委員)

- ・ 参考資料の津波シミュレーションの水位縦断図を確認したが、海岸から400～500m地点の堤防高が低いのではないかと。盲点になっていないか確認したい。

事務局)

- ・ 河口から近いほど、河川は津波の影響を受ける。今回の津波シミュレーションでは、計算範囲を広く設定し、液状化によって堤防が沈下した状態での浸水箇所、及び家屋被害箇所を把握した上で対策範囲を決めている。整備計画の中に対策範囲の絵を入れているが、この範囲を守ることで、基本的にマグニチュード8クラスの地震に伴う津波の河川遡上に対する防御はできると考えている。

委員)

- ・ 特に風田川の右岸と野中川の左岸が低い気がするが、大丈夫か。

事務局)

- ・ 指摘の通り、風田川と野中川については、高潮で浸水被害があると地元も心配している。この箇所に関して、再度見直しを行い、嵩上げの範囲、及び液状化の範囲も含め再検討している。再検討した結果について地元の方に再度、確認していただき、了承を得ている。

委員)

- ・ エコトーンとは、水際から陸域までの移行帯のことを指す。厳密に言うと、豊かなエコトーンもあり、陳腐なエコトーンもある。このような認識を持って文章を書いたほうが良い。例えば、三面張りのところでも、水際とコンクリートの間に、生態系がある場合、その範囲のことも厳密

にはエコトーンと呼ぶこともある。ただし今回は、実際に豊かな林があり、少し草が生え、水辺、そして水草があることを含め豊かなエコトーンと表現しているため、最終的に書き上げるときは、これを意識した文章とした方が良い。

- ・ 福島川整備計画 P6 に「上流から下流にかけて豊かな表情を持っています。」という様な文学的な表現があるが、基本的な言葉で記述した方が良い。生物相が豊かなのか、景観が豊かなのか少し表現を修正すべき。

事務局)

- ・ エコトーン書きぶり、豊かな表情等の書きぶりについては、見直した上修正する。

会長)

- ・ 福島川は非常に良い河川環境が残っていると感じる。福島川河川整備計画の 4.2.3 に環境学習のようなキーワードを入れた方が良いのではないか。今後は、串間土木事務所に頑張って頂き、今回の調査結果を用いて出前講義をするなど、中学校や高校の生徒たちを巻き込んだ活動をしてもらいたい。
- ・ 赤岩川は、底生動物種数が異常に少ないことを懸念している。これは今年度の調査だけが少ないのか、経年的に少ないのか、モニタリングを実施する等したほうが良いのではないか。日向土木事務所には頑張って頂きたい。
- ・ 伊比井川と宮浦川に関しては、豊かなエコトーンの形成を日南土木事務所には頑張って頂きたい。例えば、伊比井川の伊比井橋上流の右岸側は、護岸の下に石が積んであり、植生が少し張りついているため、エコトーンを形成しやすいのではないか。また河口部においても、現状では河口閉塞によって、護岸の下まで水際線が来ているが、今回の対策の中で、少し寄せ土をすることで干潟を形成することが出来るのではないか。
- ・ 塩見川は、非常に良い河川であるにもかかわらず、底生動物が少ないなど生物相が貧弱。解釈がなかなか難しいが、今年だけだった可能性もあるため、モニタリングを日向土木事務所には頑張ってもらいたい。

委員)

- ・ 塩見川の河口域は広い。生物の絶対量はいると思うが、密度が薄い箇所を調査したのではないか。

委員)

- ・ 調査範囲が狭く場所が悪いのではないか。

会長)

- ・ 調査場所が悪かったということか。もっという感じがする。

委員)

- ・ 教科書的には、エコトーンが豊かだと相対的に底生動物や鳥類も豊かになるはず。一概的には言えないが、生き物についての調査のため、一回の調査では特異な結果となる場合がある。可能であれば、もう一度モニタリングをすべき。また、調査するとしても物理的に調査できない箇所は存在する。このような場合も鑑みてデータを解釈すべき。

会長)

- ・ この事業から外れると、恐らく予算がないということでモニタリングは出来ないと思うので、頑張って欲しいと発言した。塩見川のポテンシャルは高いが、今回の調査結果だけでは十分でないと感じる。

| | |
|---------------|--|
| | <p>委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> 塩見川を見た時点では鳥類が豊富だと感じて、現場調査に加わったが、実際はほとんど見られなかった。鳥類の確認種数が少なかった要因として、特に底生動物が少ないため、シギ・チドリが少ない結果となったのではないかと感じる。時期的なことにもよるかもしれないが、一回の調査で色々とあらわすことは難しい。予算との絡みで実際は難しいとは思いますが、時期を変えながら実施することが一番大事。鳥類の面から見ても、塩見川はもっと種類も数も多い河川であると感じる。 <p>会長)</p> <ul style="list-style-type: none"> 本日、文言の修正も出ましたが、その文言の修正は私に一任させていただき、発言いただいた先生には個別に了承いただくという前提のもとで、この整備計画（案）をご了承いただいたということによろしいか。 〔「異議なし」の声あり〕 |
| (4) 今後のスケジュール | <p>会長)</p> <ul style="list-style-type: none"> 本日の意見を反映したものを、関係機関、市町に照会するということがよろしいか。 <p>事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> その通り。 |
| (5) その他報告事項 | <p>会長)</p> <ul style="list-style-type: none"> 13水系の整備計画についてはこれで終了となるが、委員の方には引き続き委員として残っていただき、ご協力下さいとのこと。よろしいでしょうか。 五十鈴川はどうなるのか。 <p>事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> 五十鈴川については、近年洪水被害が頻発しているため、地震・津波だけではなく、洪水対策も含めた見直しを行いたいと考えている。平成27年度にまとめられるよう努力していきたいと考えている。 <p>会長)</p> <ul style="list-style-type: none"> 私の役目はこれで終わらせていただく。ご協力ありがとうございました。 <p>事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> 会長、ありがとうございました。 |
| 3. あいさつ | |
| 河川課長挨拶 | <ul style="list-style-type: none"> 本日は年度末のお忙しい中、貴重なご意見をいただき、まことにありがとうございます。 本日で5回目となるが、2回から4回は県北、県央、県南、現地調査を含め1日がかかりとなった。委員の皆様には、現場、及び懇談会を通じて非常にたくさんのご意見をいただいた。重ねてお礼を申し上げます。 今回の14水系、最終的には13水系になったが、我々は今回のように多くの計画を単年度でやったことなかった。ここまでたどり着くことができたのは、委員の皆様のおかげ。本当にありがとうございます。 今後、この計画に基づいて、事業を実施していくことになるが、事業の実施においても、ご指導を仰ぐことになると思いますので、その点はま |

| | |
|--|---|
| | <p>たよろしくお願いをしたい。</p> <ul style="list-style-type: none">• 最後に、先ほどその他報告事項の中にありましたが、来年度は松山川の事後調査や、五十鈴川、また海岸と一体になって考える河川など、幾つか計画関係が出てくると思います。引き続き、委員の皆様のご指導、ご助言をお願い申し上げたい。何とぞよろしくお願ひ致します。 |
|--|---|